News Release

新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

令和7年7月4日

「国際交流ファシリテーター ワークショップ模擬披露会」開催のお知らせ

新潟国際情報大学では、学習における学生の自発性と相互性を重視しており、その一環として「国際交流ファシリテーター」の育成に力を入れています。

この度、学生たちが企画・準備を進めてきた「国際交流ファシリテーター ワークショップ模擬披露会」を下記のとおり開催いたします。

本模擬披露会は、学生が「国際交流ファシリテーター」として、地域社会における国際理解の促進を目的に、小・中・高校生対象に作成した、ワークショップを発表・披露するものです。

この取り組みは、平成 19(2007)年度に文部科学省「現代 GP」として採択され、平成 21(2009)年度に補助金支給が終了した後も現在に至るまで継続している、本学の特色ある教育プログラムです。

ぜひ、学生が取組んでいる本取り組みについて取材にお越しください。

記

1. 国際交流ファシリテーター ワークショップ模擬披露会
2. 日時・披露予定テーマ・参加学生数
   ①2025 年 7 月 10 日(木)16:30～18:00
   ・「甘くて苦いチョコレートの真実」(1 年 4 名、2 年 1 名、3 年 1 名)
   ・「地球の未来はどうなる？～プラスチックと生きる私たち～」(1 年 3 名、2 年 2 名、3 年 1 名)
   ②2025 年 7 月 17 日(木)16:30～18:00
   ・「実は私たちも当事者に！？～カンボジア紛争から考える意外と身近な紛争のこと～」
   (1 年 4 名、3 年 2 名)
   ※この日は来日中のカンボジア上院議員も視察に訪れる予定です。
   合計 3 チーム、18 名の学生が披露を予定しています。
3. 会場：新潟国際情報大学 本校みずき野キャンパス「国際交流センター」
4. 令和 6 年度訪問実績
   ・小学校 5 校、中学校 6 校、高校 4 校 合計 15 校
5. 今年度の派遣予定
   現在、派遣校を募集中であり、7 月 11 日(金)に募集を締め切ります。その後、マッチングを行い、8 月上旬に派遣先が決定する予定です。

以上

【問合せ先】
新潟国際情報大学 国際学部 国際文化学科
教 授 山田裕史
〒950-2292 新潟市西区みずき野 3-1-1
TEL 025-239-3111(代)
E-Mail:hyamada@nuis.ac.jp

令和7年度国際理解ワークショップ　タイトル・要旨一覧

大学名	新潟国際情報大学		
タイトル	**実は私たちも当事者に！？ ～カンボジア紛争から考える意外と身近な紛争のこと～**	**地球の未来はどうなる？～プラスチックと生きる私たち～**	**甘くて苦いチョコレートの真実**
要旨	紛争はいつ、どこで、なぜ起こるのだろうか。紛争と言っても、家族や友達とのケンカから、さらには武力紛争(内戦や戦争)まで、その質と規模は様々である。 このワークショップでは、カンボジア紛争を具体例として取り上げ、一見遠くの国で起きている私たちとは無関係に見える紛争と、日常生活の中の争いが本質的に同じものであることを参加者と一緒に発見したい。そして、紛争を自分事として捉えてもらい、どのように暴力化させず、平和的解決へ導けるのかを参加者と共に考えたい。	国連環境計画によると、世界では年間約2300万トンのプラスチックごみが海に流出しており、海に捨てられたペットボトルは自然分解に400年かかるといわれています。プラスチックは私たちの生活を非常に便利にした一方、海洋汚染や、環境破壊などを引き起こしています。あなたはこの問題をどう考えますか？ このワークショップでは、プラスチックと生きる私たちの暮らしについて参加者と共に見つめ直したいです。	皆さんが普段食べているチョコレートには、「苦い」現実があります。その1つが、カカオ農園での児童労働です。ガーナなどのカカオ生産地では、多くの子どもたちが学校に通えず、低賃金で過酷な労働を強いられています。 このワークショップでは、カカオ生産に潜む問題を学び、その解決策の1つとしてフェアトレードについて考えます。フェアトレードは生産者の生活改善につながる仕組みですが、まだ認知度が低く、十分に普及していないのが現状です。私たちにできることは何か、一緒に考え、具体的な行動へとつなげていきましょう！
主な対象	小学5年生以上	中学1～3年生	
関連SDGS	10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公正をすべての人に」	12「つくる責任つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」、 14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさも守ろう」	1「貧困をなくそう」、10「人や国の不平等をなくそう」 16「平和と公正をすべての人に」
代表者名	井口　幸希	岩﨑　菜摘	涌井　心

大学名	新潟県立大学		新潟大学
タイトル	**わたしの時間、見えてる？～ちょっと忙しい子どもたち～**	**今日からできる、地球の守り方 ～私たちの行動が未来を変える！～**	**避難所設営ゲーム ～君たちはどう配置するか？Global Edition～**
要旨	日常的に家族の世話をしている「ヤングケアラー」について知ってもらうことを目標とする。彼らの1日を体験するゲームを通して家の仕事の大変さや、それらに多くの時間を費やしていることを伝え、同世代の子どもたちが抱えている悩みを理解し自分にできることを一緒に考える。 このワークショップから思いやりの心をもった優しい社会をつくることを意識するきっかけにする。	現在起こっている環境問題に気づくこと、そしてそれらが自分たちの身近な存在であることに気づくことが目標。自分たちの行動が環境に与える影響や行動の実践例を、ごみの分別に関するゲームなどを通してともに考えていきたい。「今日からできる」を合言葉に、それぞれの立場ですぐ実践できる行動を紹介し、毎日の生活に活かしてほしい。	日本は自然災害への備えが常に求められるような、災害大国である。多様な背景を持つ人々が安心して避難所を利用できるよう、避難所設営をテーマにした、ゲーム形式のワークショップを実施する。 ワークショップでは、生徒が、学校に避難してきた住民の避難場所を配置するうえでの課題を解決し、避難所づくりの視点を学ぶことによって、防災意識と共生の理解を深めることを目的とする。このゲームでは、多くの外国籍の人が、助けを求めてやってくる。多様な背景や国籍を問わず、誰もが安心できる避難所づくりや防災を実現するにはどうすればいいかを考えてもらう。
主な対象	中学生、高校生		中学生、高校生
関連SDGS	1「貧困をなくそう」、3「すべての人に健康と福祉を」 10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公正をすべての人に」	12「つくる責任、つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」	3「すべての人に健康と福祉を」、10「人や国の不平等をなくそう」、 11「住み続けられるまちづくりを」
代表者名	野澤　りおな	高橋　桜	石井　杏

大学名	上越教育大学	
タイトル	**五感で学ぶ！カラダで感じるアクティビティ！**	**開心！？开心！？～世界の食べ物にいただきます～**
要旨	ファシリテーターと一緒になって「五感」を使うアクティビティを体験することで、日常にある自然の豊かさに気付いたり、本物に触れたり、自分自身が社会に向き合ったりする”きっかけ”を提供できればと思っています。 そこで今回は、アクティビティとして楽しみながら行える”体験的なゲーム”を予定しています。カラダ全体を最大限生かしながら、私たちの生活について見つめ直す時間にしていきたいと考えています。	近年、日本には外国にルーツをもつ子どもが増え、特に中国籍の人は約84万人も暮らしています。文化の違いに戸惑う声も多く聞かれますが、こうした状況は異文化に触れ、理解を深めるチャンスでもあります。 そこで、本ワークショップでは日中の食文化の比較して、違う文化とどう関わるかを参加者とともに考え、異文化理解を深めるきっかけとしたいです。
主な対象		小学3～6年生
関連SDGS	3「すべての人に健康と福祉を」、10「人や国の不平等をなくそう」、 12「つくる責任つかう責任」、15「陸の豊かさも守ろう」、16「平和と公正をすべての人に」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」	16「平和と公正をすべての人に」
代表者名	三ツ堀　由真	井上　拓海

【新潟国際情報大学国際交流ファシリテーター事務室ホームページ】

事業の詳細や過去のワークショップタイトル等について、ご覧いただけます。※今年

【新潟県国際交流協会ホームページ】

募集要領及び申込書等は、当協会ホームページのお知らせからもダウンロードいただけます。